

ネットワーク

全北海道教職員組合 障教部通信 2013/No. 9

2013合同教育研究全道集会に参加して -2013.11.2~3 札幌-

道教組障教部副部長 竹内哲也

一日目のテーマ討論特別講演では、『競争と管理』を乗り越える実践・学校づくり」に参加しました。参加者が大変多くてまずビックリ!! (69名の参加だったそうです)。

講演では、3名のパネラーが日々の授業づくりに向けて、「楽しいという授業」「子どもが生き生きとした授業」など意欲的に取り組んでいる姿勢がわかりました。また、同僚達を巻き込み(連帯感を生む)授業内容の充実を図り、よりよい学校づくりを行っている話もありました。さらに、教職員が保護者への理解を深めるために保護者との交流を行っている報告もありました。この討論会では、フローから管理職や教員の教育実践についての意識の低さや学力問題などの意見も出て、大変熱気に満ちたテーマ討論でした。



分科会は二日間とも「20分科会：障害児・障害者の教育と福祉」に参加しました。一日目は、最初に『障害児者の権利保障と虐待防止～地域づくり、

学校づくり～』のシンポジウムがありました。シンポジストは、原貴弘さん(札幌市社協自立支援課)、上田マリ子さん(北海道自閉症協会札幌分会ポプラ会)、渡邊悌さん(道教組障教部長)の3名でした。原さんからは、「障害者虐待防止法の概要」について、詳細かつ丁寧な説明があり大変勉強になるものでした。上田さんからは、保護者の目から見た「虐待」の話や教職員の注意点など、迫力あるお話をしていただきました。渡邊さんからは、丸瀬布小の児童の「指導死」のことを考察し、PDD(広汎性発達障害)の児童の指導を通して指導のあり方などについて、研究者的な視点と現場の視点の両面を含んだ内容の報告がありました。会場には教職員の他、多数の大学生も来ていて、真剣な面持ちで聞き入る姿が見られました。

二日目も同じ分科会の分散会①グループに参加しました。①グループは、5本のレポート報告がありました。この分散会で特に話題になったのは、夕張高等養護学校の玉島先生の『高等養護学校で人間性の再生を～自己肯定感を育てる「あ」「し」「た」「ほめる」～』のレポート報告から、「自己肯定感」をどのように育てるか?ということでした。参加者から、様々な意見、質疑があり大変盛り上がりました。この他のレポートでは、学級づくりに向けた教職員の連携についての報告や、自閉症児の指導のあり方、生活訓練事業の取り組み、性問題行動の治療教育の話などのレポートがあり、色々なことを知ることができる分散会でした。

来年も、ぜひ参加し色々なことを学びたいと思います。

道教委～道教組障害児教育部&高教組障害児学校部 「専門部交渉」を行いました

8月始めに提出した「要求書（北海道の障害児教育のために）」に基づく交渉が10月下旬によく行われました。要求書提出時点では、重点要求事項についての回答が得られず、担当課である特別支援教育課との直接の交渉と意見交換を求めているのですが、道教委が道議会などの対応を優先したために、延び延びになっていたものです。

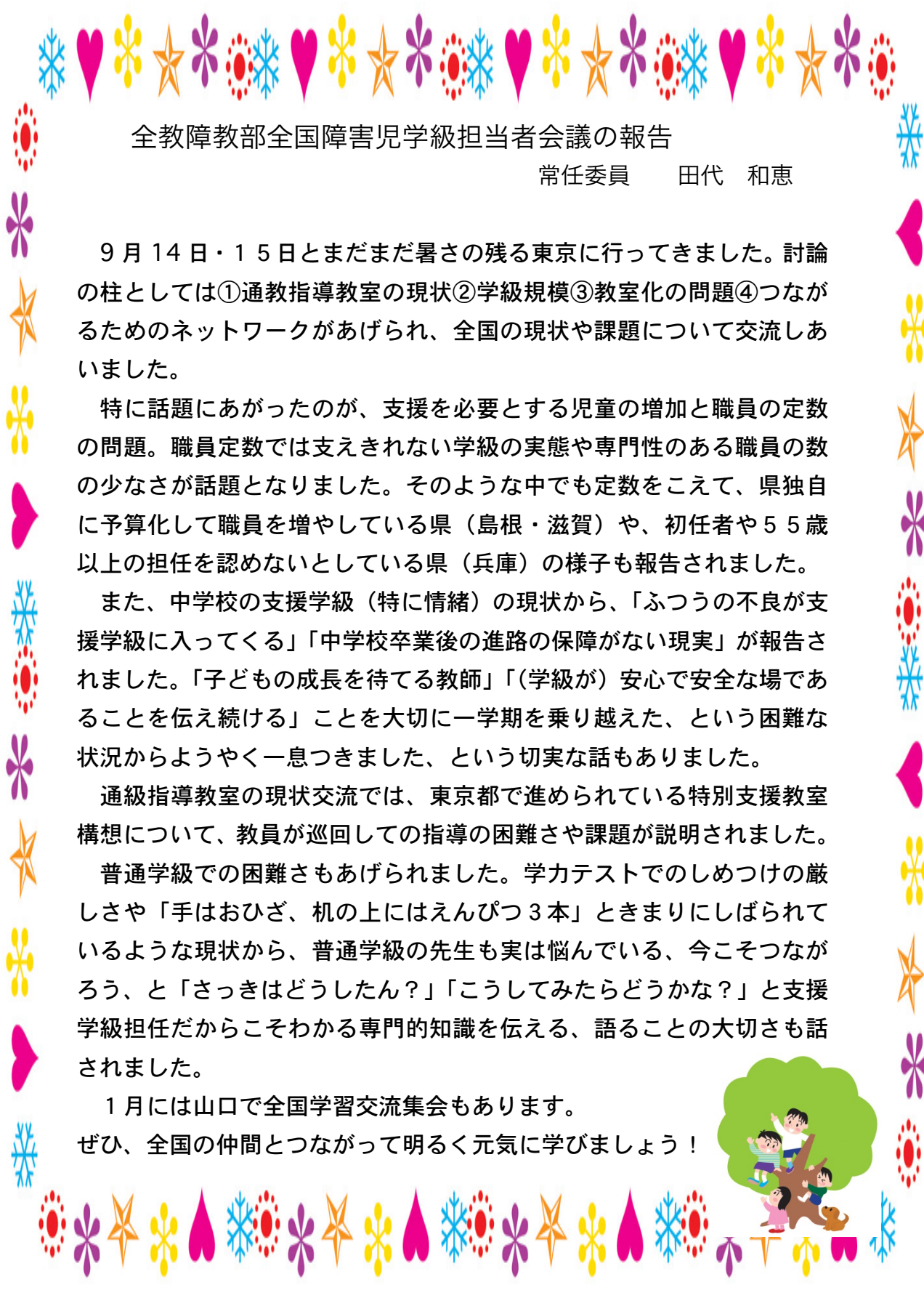
道教組からは中川、高教組からは三田村部長と藤田副部長が参加したほか、両教組の担当役員が参加しました。道教委側は特別支援教育課の4人の主幹が対応に当たってくれました。

要求書の内容は既にお知らせしているとおりでありますが、道独自の予算執行の必要がある項目については、「制度の改正・是正について文部省に要望している」との回答に終始し、実現の道は遠いという印象でした。

しかし、そうした中でもいくつかの要求事項に関する回答の中で、一生懸命に頑張っている教員が救われる内容がありました。「小中学校の特別支援学級で、障害の程度や状況を見捨てて8時間以上の支援学級での指導を行うことを一律に現場に押しつけないで欲しい」という項目について、「通常学級在籍の児童生徒を対象にした『ことばの教室』の標準指導時間が8時間であることから、支援学級に籍を置く児童生徒の支援学級での指導時間が8時間を下回るようでは整合性がとれないということになる。しかし、通常学級での合同学習に参加している児童生徒への個別的な学習サポートなどの『特別な対応』が一定時間以上あり、合理性が確認できれば、一律に支援学級での指導時間数のみで線引きをすることに意味はないものと考えられ、ある程度柔軟な対応を考えることができる」というものです。障害の程度や状況に応じて、通常学級での合同学習が有効だと判断される場合に、合理的な説明がつけば支援学級の指導時間数が『ことばの教室』の指導時間を下回ることもあり得る、ということを確認しました。「郡部の経験が少なかったり若い教員は指導主事の何気ない一言に縛られてしまうこともあるので、この点についても十分に指導して欲しい、との要望をしました。

高等部の訪問教育を希望する場合の「当該特別支援学校の中学部で訪問学級を卒業したもの」「過年度生は年齢の若い順から」という入学選考の基準や内規については一定の主張をすることができました。道教委としては希望のある過年度生の高等部訪問教育については、実施することでQOLの向上が図られるとの認識を示した上で、あと数年で全希望者の入学が終わるものと考えているほか、一部で行われているテストケースについても、いつまでもテストで続けることが妥当ではないとの認識を示しました。

現場の校長や事務長と話をしていてもなかなか問題点の整理がつかないようなことでも、道教委の担当者と話をすることで課題解決に向けた動きを作ることや、課題がそこにあることを行政当局に知らせることができる機会として、担当課との直接交渉や意見交換は大切なものであることを改めて認識しました。次年度以降もこうした交渉が続けられるよう、努力していきたいと考えています。



全教障教部全国障害児学級担当者会議の報告

常任委員 田代 和恵

9月14日・15日とまだまだ暑さの残る東京に行ってきました。討論の柱としては①通教指導教室の現状②学級規模③教室化の問題④つながるためのネットワークがあげられ、全国の現状や課題について交流しました。

特に話題にあがったのが、支援を必要とする児童の増加と職員の定数の問題。職員定数では支えきれない学級の実態や専門性のある職員の数の少なさが話題となりました。そのような中でも定数をこえて、県独自に予算化して職員を増やしている県（島根・滋賀）や、初任者や55歳以上の担任を認めないとしている県（兵庫）の様子も報告されました。

また、中学校の支援学級（特に情緒）の現状から、「ふつうの不良が支援学級に入ってくる」「中学校卒業後の進路の保障がない現実」が報告されました。「子どもの成長を待てる教師」「(学級が) 安心して安全な場であることを伝え続ける」ことを大切に一学期を乗り越えた、という困難な状況からようやく一息つきました、という切実な話もありました。

通級指導教室の現状交流では、東京都で進められている特別支援教室構想について、教員が巡回しての指導の困難さや課題が説明されました。

普通学級での困難さもあげられました。学力テストでのしめつけの厳しさや「手はおひざ、机の上にはえんぴつ3本」ときまりにしばられているような現状から、普通学級の先生も実は悩んでいる、今こそつながろう、と「さっきはどうしたん?」「こうしてみたらどうかな?」と支援学級担任だからこそわかる専門的知識を伝える、語ることの大切さも話されました。

1月には山口で全国学習交流集会もあります。

ぜひ、全国の仲間とつながって明るく元気に学びましょう！



北海道障害児フォーラム2014のご案内

毎年行っているフォーラム。道教組の参加は10名前後。トータルの参加でも40名前後。このままではまずい！！何とかしなければ。市民を巻き込んだ教育運動を構築しなければ・・・。ということで、起死回生の企画、300名参加目標。仕掛けとして、道教委、札幌市教委の後援も取り付けた。研修で堂々と参加を！だから、道教組から何とか20名は集めたい。そして、交流会でしっかり語り、次の日の総会でじっくり論議を！！まず、みなさんで、集おう！

期 日：2014年2月8日（土）

会 場：エルプラザ3階ホール

（札幌市北区北8条西3丁目札幌市男女共同参画センター 札幌駅北口徒歩3分）

参加費：一般1500円、後援団体・主催団体の会員1000円、学生500円
（道教組組合員は本部から参加費支給）

主な日程と内容

09:30～ 受付

10:00～ 開会・あいさつ

10:10～ 特別支援学校・学級の実践報告・課題の交流

12:00～ 休憩

13:00～ 報告 「特別支援教育の全国的課題」

13:40～ 講演会 講師 小野田 正利 氏 (大阪大学大学院教授)

テーマ 「親はモンスターじゃない！」

～保護者と教師が今こそつながるために必要なこと～(予定)

16:30 閉会予定

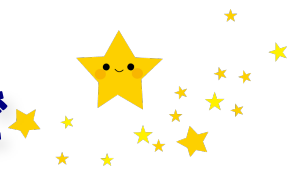


顔は、車だん吉と、カンニングの竹山を足して2で割ったようだと言われます。講演風景は、まさにライブで、綾小路きみまろに似ている、しゃべりは金八先生のように評されることが多くなりました。日本の学校と教職員の“等身大の姿”を明らかにすることを自分のライフワークとしている。『片小ナビ～保護者のための片山小学校ガイドブック』づくり、学校讃歌ブックレットシリーズの発行、イチャモンの研究など、阪大の教育制度学研究室は、独自の「どろをさらい、地をはう路線」を追求し、「学校現場に元気と自信を！」をテーマとしている。（イチャモン研究会HPより）

申し込みは、総会、交流会と一緒に

道教組常任委員の中川先生まで！

（最終ページをFAXまたはE-mailでお知らせください）

みんなで 

学んで、つながって、笑顔でつくろう障害児教育の未来

第13回 全国障害児学級&学校 学習交流集会 in 山口

日程：1月11日（土）～13日（月）
会場：11日全体会／ホテルニュータナカ（山口市湯田）
：12～13日／湯田周辺の共済会館など

11日 (土)		13:00-受付 13:40-現地 企画	14:00-14:45 開会全体会	15:00-17:00 記念講演 茂木俊彦氏	18:30-20:30 全体交流会
	会場	ホテルニュータナカ			
12日 (日)	9:30-11:30 ・てんこ盛り講座 (13テーマの講座) ・文化バザール(4つの教室)	昼 食 休 憩	12:30-17:00 ・基礎講座 ・旬の実践分科会(15の分科会)	18:30- 交流会(各県ブロック・青年・障害児学級ごと)	
	カリエンテ山口、セントコア山口、パルトピア山口等				
13日 (月)	9:30-12:00 教育フォーラム(4つのテーマ)				
	カリエンテ山口、セントコア山口、翠山荘カトレア等				

道教組常任委員会で論議し、今回二名を派遣することにしました。旬の実践分科会「10,自閉症・自閉的傾向のある子どもたちの授業づくり・教育課程づくり」(幼、小)でレポート発表する十勝の渡邊と日高連絡会に今年道教組に加盟した熊越ゆきさんです。参加の感動を多くの方に広めてもらいたいと思います。来年度はまだ参加していない方の参加を是非、お願いします。そして、仲間の組合員にその感動を伝えて欲しいと思います。

道教組障教部総会案内

総会のご案内です。今年も総会を障害児フォーラムの次の日にしました。

「①障害児フォーラム」に参加した後、「②懇親会」(高教組と合同)を行い、次の日に「③総会」に出る形です。どれか一つでも良いので、みなさん参加しませんか。

【日時】 2014年 2月9日(日) AM10:00~PM 3:00

【場所】 北海道労働センター3階 会議室

札幌市東区北九条東1丁目2-22

昼食休憩をはさみます。近くにコンビニがありますので買い物に出かけてもよし、事前に用意して昼食時間を情報交流に利用されても良いと思います。

※参加を予定されましたら、メールかファクスで障教部へお知らせください。

北海道障害児教育フォーラム2014 及び障教部総会 参加申込書

(道教組関係は下記でとりまとめます)

FAX: 011-691-4157 または ayataichi@msh.biglobe.ne.jp(中川)

勤務先学校名・所属など _____

連絡先など _____

(参加されるものに、○を付けてください)

氏名	所属単組	フォーラム	懇親会	総会